

第6次斜里町総合計画策定委員会 第8回部会長会議 記録

1. 日 時 平成25年7月5日(金) 18:30~22:00
2. 場 所 ゆめホール 会議室 3
3. 出席者 別紙のとおり
4. 内 容

- ・各部会長より、それぞれの部会の経過報告を行った。
- ・各部会長より、資料6を用いて説明を行い、単位施策の連携や統合、重複部分の確認を行った。
- ・次回、部会長会議は8月7日開催予定。
- ・次々回、部会長会議(8月26日~9月6日の間)に山崎アドバイザーを招くことになった。

●会議内容<要旨>

1.開会

- ・門間副委員長の進行で行われた。

2.委員長挨拶

- ・今、私たちが斜里岳の何合目にいるのかわからない状況が続いているが、各部会から成果が持ち寄られたので、それを確認して、今後、どのように進めていくのか協議していきたい。

3.経過報告

各部会の開催結果について

- ・各部会長より経過報告を行った。

○くらし部会(戎居部会長)

- ・行政委員の担当から、単位施策を持ち寄っていただき、それについて検討した。今後、具体的に詰めていきたい。今日は、指標をどのようにやっていけば良いのかを皆さんに意見をいただいて部会に持ち帰りたい。

○しごと部会(高橋部会長)

- ・6月27日の部会で出された案を整理、統括する形で資料として提出している。委員の参加状況により、意見の反映、抽出がしにくい状態であるが、期限が決まっているものなので、実際に合うかどうか心配している。

○いきいき部会(梅村部会長)

- ・6月27日にWGが作成した資料を元にして、やっと落とし込んだ。
一部資料の訂正有り。計画体系L-5の中で、相談機能の充実だけでは足りないということで、福

祉的相談機能の充実へ訂正。

○みどり部会（下山部会長）

- ・6月28日に部会を開催した。施策一覧表の作成作業にとりかかった。細かい事業を単位施策に載せるのではなく、よりシンプルにしようということで、単位施策の中にも色々な事業がたくさんある。その中の表現としてまとめた結果、持続的発展が可能な循環型社会づくりの推進の基本施策を4つから3つに集約した。単位施策もより簡潔な表現にした。環境基本計画の協議が終わったので、それを直したものの確認作業に入っている。今回は、7月22日に開催を予定。

○まちなみ部会（元木部会長）

- ・みどり部会から振っていただいた、墓地、火葬場について部会に持ち帰り、基本施策、単位施策には載せないことになった。L-6の単位施策は前回の部会で出揃った。それぞれの基本施策の整理表については、行政委員と町民委員が分担して作成し、それぞれ意見を出し合うような形をとった。出てきたものを整理表には落とし込んだが、それぞれの表現が異なるため、今後は、それを行政委員に整理してもらい、簡潔にまとめるという作業を行う予定である。

○まなび部会（近藤部会長）

- ・単位施策について、WGから上がってきたものをもんだ。L-5に運営と充実を分けていたが、施設ごとに運営が異なるため、公民館と図書館を分けた。

○ちょうみん部会（武山部会長）

- ・基本施策の整理表をそれぞれの委員から出してもらった。出されたものをたたいて整理を行っている。まだ途中段階であるため、部会を2、3回行えば固まると考えている。

事務局より、会議開催結果、**資料1**、**資料2**、**資料3**を説明した。

また、企画総務課長より、6月定例議会で総合計画の現状を説明した際に、いくつかの質疑があったため、**資料4**を用いて説明した。

議事

(1) 計画体系の調整について

- ・各部会長より、**資料5**、**資料6**を用いて説明を行い、単位施策の連携、重複部分を確認した。

○みどり部会

- ・議員から指摘のあった世界自然遺産は、どのように言えということなのか。

→項目出しをなささいということを行っている。しかし、世界自然遺産については、項目出しではなく、色々な表現の中で出てくると説明した。

- ・水環境の保全について、水道の水源地域の保全といった時に、来運の水源地の話が出ていたので、斜里川の水系であればくらし部会ではうたっていない。この辺の重複をどう考えるか。

→水道課によると、湧いている所を守るのが水源の保全だということ。水源地域になると上流側の

山になるので、そこですみ分けをしていると思う。

・重なるところがあると思うが、この方向で進んで問題はないか。

→どこかで担当課を張り付けるような作業は、内部的に必要なだと考えている。

→ここで話しても結論は出ないので、職員 WG の中で決めてもらった方が良い。

・地球温暖化防止対策の推進について、しごと部会では資源の循環型活用の推進がある。みどり部会としごと部会で役割分担ができる所があればと思う。

→具体的な活用方法は、部会の議論の中で出ているのか。

→バイオマスという話は出ていたが、過去の事例を考えると、コスト的に合わないということだった。年間を通じて、色々な環境面を整備すればやれないことではないという話も一方で出てきている。

・我々が考えているのは、あくまで事業化、みどり部会の趣旨は環境保全だと思う。そこと同じような文言で出てくるとまずいと思った。

→出てきた時に調整できると思う。

・みどり部会としごと部会で、自然の保護と利用を考えた際に、エコツーリズムの話でお互いの価値観がぶつかり合う可能性があるので、考え方のすり合わせをした方が良いと思う。

→自然環境の保全と適正利用の推進に、エコツーリズムの推進が入っている。

・この部分、部会の中で単位施策が似通っていても大丈夫か。

→部会でこれを共有していけば、どうするかという議論はできるだろう。どこでやるかの調整は行政委員にしてもらえば良いのではないか。

→議論が煮詰まってきて先に進んで行かない状況にあるため、この後は行政の方で点検と調整をしてもらって、重複や抜けている所を見つけていただいて次にそれを生かしていきたい。

→環境課の事業だが、みどり部会の単位施策では具体的にうたっていないので、しごと部会に載せておいて、実行は環境課が行うというのでも良いと思う。

○しごと部会

・付加価値化と事業の拡大となっていたが、産業の多様化の推進と内容が重複するのではないかと
いうことで削除。代わりに、産業連携という視点で話が出ていた総合窓口の設置を加えた。

・既存の知床イメージの打破とはどういうことか。

→集客数に重きを置くような既存のイメージを、滞在型、高付加価値化して変えるという話が出ていた。

・味覚の継承とは具体的にどういうことか。

→例えば、飯寿司のような生活に密着したものをきちんと継承していこうというもの。

→食育とは別なのか。

→食育も絡んでくるとは思う。

・担い手の育成と確保の所は、高齢者の社会参加の促進、高齢者の生きがいつくりの推進の所と重複してくるとは思う。

→高齢者の労力の確保、スキルやノウハウを有効活用して、継承していくことを目的として上げている。それから、女性の働く環境について、例えば農業でいえば、子育ての環境が整うことによ

り農業の労働環境が整うのではないかと、という観点から、担い手の育成と確保ということで、女性・高齢者の能力活用、シルバー世代の就労支援を上げている。

→目的は同じだが、経験やスキルを活かすのと生きがいでは、視点や切り口が違う。

→実情としては、生きがいではなく生活のために働いているのが実情だと思う。

→これから働く人間は高齢化していくことは間違いない。それでこのような提言をしたが、表現が良くないので再考する。

・商店街を中心とした市街地計画とはどのようなことか。

→人が集まる所に施設を置かないと、分散していたのでは効率は良くならない。また、中心部にあ
る休閑地、道の駅や銀行等の既存の施設に隣接する空き地を有効利用するための計画があっても
良いのではないかとこの話が部会では出ていた。

・総合窓口の設置を基本施策にしてしまうと、ここから広がらないと思うので、単位施策の中で表
現してはどうか。

→意見として伺っておく。

・若年の雇用について、議題に上がっているか。

→若年者の話はまだ出ていない。若者が定着するためには、雇用の場を作らなければどうしようも
ない。部会の中で検討する価値はある。

・資源の循環型活用の推進は、ここに出ている各産業廃棄物の適正処理だけでは、町が手を出して
やっていく項目にはならないだろうと思う。

→確かに町の仕事として産廃処理は難しいと思う。

○まちなみ部会

・コンパクトシティの実現は、高齢者が不自由なく暮らせる都市空間の形成、過疎化・少子高齢化
を見据えた公共施設やライフラインの設置計画の策定を考えているので、しごと部会と重複する。

・空き家住宅の利活用・整備は、現在、空き家となっている物件を利活用することにより、快適な
生活環境にする。利活用であれば、ちょうみん部会の定住移住の促進と重複する。

→高齢者に配慮したという部分では、含んではいるが、高齢者に限定はしていない。

→サービス高齢者住宅を町の中心部につくることを想定しており、中心市街地の刷新までは考えて
いない。表現の仕方ですら誤解を招くので、文言を再考する。

→そうすると、高齢者に配慮した集合住宅建設の推進、寒冷地向け住宅の建設促進と重複する可能
性がある。施策内容にそれら全てを盛り込んで、施策名を一つにする方が良いと思う。

→コンパクトシティの実現、高齢者に配慮した集合住宅建設の推進、空き家住宅の利活用・整備に
ついて、施策及び施策内容を整理する。

・定住・移住の促進は、まちなみやしごと部会と重複する。

→空き家住宅の利活用については、まちなみ部会で引き受けても良い。

→定住・移住の促進については、ちょうみん部会で考え直すこととする。

・くらし部会では、関係機関への協力の要請という単位施策において、斜里川水系の堤防や国道・
道道の整備について、関係機関に要請すると記載しているが、町が直接整備を行うものではない
ため、斜里町の総合計画に載せて良いのか。

→町で主体的に整備できるものではないため、施策内容は「要請する」に修正した方が良い。

○くらし部会

- ・高齢者が買い物に行けない、病院へ行くにも車がないのでなかなか行けないといった所の生活基盤という面での公共交通の整備といったことを盛り込む可能性はあるか。
- 全く検討していないわけではなく、過去に商工会から町へ提案があり、ニセコ町でやっているデマンドバスの視察に議員さんが行っている。これはバスではなくワゴン車を使用して、予約があった所だけをまわるものである。
- デマンドバスは、高齢者が出かける機会が増えるので、健康維持にも繋がるという話を聞く。
- ・買い物難民に対して、日用品や食料を販売する異動配送車の話は出ていたか。
- 利用者のニーズが把握できないため難しい。

○いきいき部会

- ・高齢者の生活環境整備の推進は、まちなみ部会の高齢者に配慮した集合住宅建設の推進と重複する。
- 建てる目的は一緒だが、整備主体は、まちなみは民間、いきいきは行政という所に違いがある。
- ・救急医療の充実は、体制面について、くらし部会ではハード面での整備の観点であるため、視点が異なる。
 - ・生涯を通じた健康づくりの推進は、施策名の統廃合等、精査が必要である。
 - ・「高齢者の社会参加、生きがいつくりの推進」「高齢者の生活を支援する取組みの促進」は、「高齢者の社会参加、生きがいつくりの推進」に統合した方が良いのではないか。
- 部会で検討する。
- ・保育の所に幼児教育を入れていただけるとありがたい。
- 具体的には、幼児教育、保育が一体となった認定こども園という制度はあるが、その方向に向かうのは現状では厳しい。
- ・親の就労支援のための託児の確保、子育て家庭への育児援助の拡充の施策内容は、「検討します」ではなく、最低限「目指します」にしてほしい。

○まなび部会

- ・基本施策の施策名、単位施策の内容等、部会で精査が必要である。

○ちょうみん部会

- ・国際交流を受け入れたいと思っている人は多いのか。
- それほどでもない。
- ・受け皿としては、どこかの団体が受けているのか。
- 国際交流協会の事務局を通じて受け入れ先をあたってもらっている。
- ・現在の定住・移住に対して、行政はどのように取り組んでいるのか。
- ホームページを見ても、知りたい情報にたどり着けない。まずは、斜里に移住しようかなと思ってもらうことからスタートしてもらいたい。
- ・定住については、住みたい町をつくるということであれば、全ての部会が目指していることなの

で、あえて触れなくても良い。

・文化・芸術交流を進めるの所で、ロシアとの交流があるがどのようなものか。

→博物館の活動の中にあるロシアとの学术交流のこと。一般的ではないため精査する。

(2) その他

○数値目標について

・部会の中で数字を当てられる部分とそうでない部分があると思うので、数値目標ができない所は、最初に始めることを書いたら良いと思う。

→例えば、100 m²運動の参加者が現在1万6千人くらいなので、10年後に2万5千人にしようというのが数値目標だと思う。

→数値目標を設定できるものについては設定する。

・次回、部会長会議は、8月7日に開催する。

・山崎先生に来てもらおうと考えている。時期は、8月26日から9月6日の間で調整する。

第6次斜里町総合計画策定委員会 第8回部会長会議 出席者名簿

◇ 委員 ◇

役 職	氏 名	出 欠	備 考
委員長	三浦 勝利	○	
副委員長	門間 哲也	○	
みどり部会長	下山 誠	○	
しごと部会長	高橋 秀典	○	
まちなみ部会長	元木 誠二	○	
くらし部会長	戎居 桂三	○	
いきいき部会長	梅村真由美	○	
まなび部会長	近藤 将人	○	
ちょうみん部会長	武山 俊一	○	

◇ 事務局 ◇

役 職	氏 名	出 欠	備 考
総務部長	北 雅裕	○	
企画総務課長	馬場 龍哉	○	
企画係長	河井 謙	○	
企画係	竹川 彰哲	○	
企画係	塩 幸也	○	

◇ オブザーバー ◇

役 職	氏 名	出 欠	備 考
教育部長	渡辺 実	○	

◇ 一般傍聴 ◇

所 属	氏 名		備 考